

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	実践状況	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に理念の唱和を入居者様の前で行い、理念の共有を図っています。	理念は開設時職員の意見をまとめ、作成された。「笑顔」「初心」「協力」の3つを掲げ、利用者、家族、誰でもわかりやすく理解できる理念として共有されている。毎朝、朝礼の際に復唱、確認し日々の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の回覧物が苑にも定期的にくるので、お茶の間会への参加の要請や、地域の避難訓練開催について等、地域住民として情報が得られるようになっていきます。	地域との交流は、区長の働きかけもあり、お茶の間会への参加や村上祭り見物の協力を得ている。今後は、地域で開催されている「野菜市場」への参加意欲も示されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、入居者様の状況報告をさせて頂いています。また、離苑される方々がおられることも、地域の交番所長に、会議内で報告しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の祭りに参加した際に、ご自宅方面まで一人で向かわれた方がおられたことについて、会議で報告した際に、ご家族様より良いご意見を頂き、内容を検討しています。	運営推進会議は各代表が参加されている。認知症の事例対応として、外出時、利用者の尊厳を大切にするため、名札の変わりにバッチ利用のアイデアや意見をいただくなど、日々のサービスに繋げた報告もされている。	運営推進会議は2ヶ月に1回計画的に継続開催し、参加されない家族の方にも会議内容を報告するなど、利用者や事業所の現状への理解を提供していくことで、サービス向上に繋げていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて苑での取り組み、実情を報告し、ご意見を頂いています。	村上市主催の研修会には、運営推進会議の包括支援センターの職員や施設職員も参加し、市町村との協力関係を築く取り組みが行われている。また、実習生受け入れも積極的であり、福祉に向けた研修の場として提供されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	実践状況	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束について理解しており、日常的に、拘束しないケアに取り組んでいます。	身体拘束については、車椅子利用の方も自由を抑制されることがないよう、日々のケアの取り組みや施設内研修等で全員の意識統一を図っている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は虐待防止についての勉強会は開催しておりませんが、虐待についても、日常的に留意しながらケアに取り組んでいます。	高齢者虐待に関しては、日々の関わりの中で注意を払い虐待防止に努めている。しかし、全体的に研修、会議の時間が持てず、今後の検討課題でもある。	今後は虐待防止に向けた研修、職員会議の機会を持ち、虐待防止の意識を強化していくことを期待したい。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を必要とされる入居者様はおられないが、必要性に応じて制度を活用できるように、学ぶ必要があると考えております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居時に契約書と重要事項説明書で詳細をご説明し、同意を得ております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様から頂いたご意見、ご要望は随時反映させるように努めております。また、苦情内容については、運営推進会議でもご報告しております。	家族からの要望や苦情等は面会時に意見を伺い、推進会議にも報告されている。現在、看取りの要望を受けており、実現に向けた職員体制への配慮、医療機関との連携への取り組みを目指している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月に一度を基準として、全職員参加のミーティングを実施しています。業務内容改善についてや、人員不足についての意見等が聞かれており、人員については増員を予定しております。	全職員のミーティング時に、業務改善、要望、提案を聞く機会を設けている。業務に追われ会議の開催数が減少していることが現在の課題である。管理者は、職員が意見を言いやすい雰囲気作りに努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が全職員に自己研鑽を呼びかけております。運営連絡会議内でも、職場環境、条件の整備にも力を入れていることについての報告があります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の目の届きやすい場所に研修案内を置いています。その他の研修依頼もあるので、その都度、研修要項等を調べる等して、職員からの研修への意欲を大切にしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に各事業所の管理者が集まって意見を交流する場があり、参加しております。職員同志の交流の場も年1回計画的に行っております。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に、ご本人、ご家族様に意見を頂きながら、ご本人、ご家族様共々安心して生活ができるように心がけております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に、ご本人だけでなく、ご家族様からのご意見も大切に伺いながら、ご本人を共に支援していく心構えをお伝えしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に、現在のご本人の状態に応じ、受診対応をご家族様に依頼しています。連携医の往診対応や、他の医療機関への入院についても可能であるとご説明しています。		

自己	外部	項 目	自己評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が生き活きと共同生活を送る為に、それを支える立場にあるのが私たち職員である事を意識しながら、より良い関係作りに努めています。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用状況報告を毎月発送したり、ご家族様にも苑の催しに参加下さるよう呼びかけたりしています。ご家族様からの電話を取り次ぎしたり、ご本人からも電話して頂くこともあります。	毎月、日頃の様子について状況報告と行事参加の呼びかけを行っている。職員は、家族、利用者の関係が途切れないよう情報を提供し、共に支援策を考えながら協力関係を築いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方が面会に来られたり、馴染みのスーパーで買い物中に、ご近所だった方や、知り合いの方に声をかけて頂き、会話されることがあります。	地域との交流が途切れないよう友人、知人が訪れやすい雰囲気づくりや、本人や家族の思いを聞き、馴染みの場所に出掛けるなど、関係が途切れないような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や特徴をしっかりと把握し、集団の中で孤立せずに、その方らしく生活が営めるような支援を心掛けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後、退居となった場合においても、ご家族様との連絡や、ご本人への面会を通じて、状態観察を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の、生活歴、馴染みの暮らし方や、その方の背負ってこられた役割等をコミュニケーションを通じて把握していくことで、その方に添ったケアを提供できるように努めています。	事業所では、入居時の家族や本人の面談で把握した「想いや意向」が反映できる役割を見出すことができるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の生活してこられた背景にあるその方の役割をコミュニケーションを通じて、共有していきたいと考え、努めております。	利用開始前に、本人、家族から利用者の従前の暮らし方や生活歴の情報提供をいただいている。日々の関わりの中で、きめ細やかに一人ひとりの生活習慣に添ったサービスを提供出来るように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活状況や、背景、役割、生活スタイルを尊重し、共有させて頂くように努め、その方が心身共に健やかで、その方らしく生活が送れるように、心がけております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成は、計画担当の介護支援専門員が主体で、本人やご家族の意向を反映させた計画となるように努めております。	利用者や家族の意向を踏まえながら居室担当職員がモニタリングを実施し、計画作成担当者が介護計画を作成している。しかし、現在なかなか時間がとれずユニットで話しあう場が少なくなっている。	居室担当職員ばかりではなく、より多くの職員が参加するカンファレンスを定期的の実施し、多くの意見やアイデアを反映できる仕組みづくりとなるものを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の状態や経過は、個別記録に随時残していき、職員間での申し送りを行いながら、常に情報が共有できるように、心がけております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様がニーズを出せるような雰囲気作りと、ニーズを受け取れる対応力を養うように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	実践状況	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	苑の中だけの生活ではなく、地域の催しにも参加して頂きながら、地域の中の住民の一人として、社会生活が継続してもらえるように努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、苑の看護師の指導を仰ぎ、ご家族様へ連絡し、ご家族様に受診の対応をして頂いている。かかりつけ医が、当苑の連携である場合は、ご家族様へ連絡し、苑対応にて受診、又は、医師に往診して頂いています。	かかりつけ医には看護師が中心になり家族との連携を図っている。また、協力医が往診出来る環境であり、医療面の支援体制が構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	信頼できる苑の看護師とは、常に情報の共有を図り、指示を仰ぎながら、職員全体で入居者の健康管理に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関や、ご家族様と退院の日時等の連絡を行い、退院時の状態報告についても把握しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、苑として、昨年より、看取りケアも選択肢の一つとして行う方針と致しました。今後、ご家族様にも終末期のことについて、話合いをしていきます。連携医とは、看取りケアを苑で行うことに対しての協力体制ができております。	事業所では協力医の支援を受け、看取りが出来る環境を整備し、看護師や管理者が看取りの研修に参加している。現在、介護職員も看取りに関する研修に参加するなど、看取りケアの希望がある利用者に対して看取りの支援が出来るように取り組んでいる。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時に備えたマニュアルを作成し、応急手当、初期対応の訓練を行っております。	管理者は救急法の指導ができる資格を有しており、毎年4月にAEDの研修を実施し、職員全員がAEDを使えるように訓練を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	実践状況	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、地域の避難訓練にも参加し、災害時の緊急避難場所と避難方法について職員全体で把握している。また、夜間を想定した避難訓練にて、地域の方にもご協力頂きました。	地域住民が参加する地域の避難訓練に参加している。また、夜間想定訓練も近隣住民の協力を得て実施している。	今後は、運営推進委員の地域代表や家族に呼びかけるなど、地域住民の参加をいただきながら利用者を安全に避難できるよう、定期的な訓練の実施を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格、生活歴、職歴等、その方の役割や背景に目を向けるように取り組み、職員間でも情報を共有しております。	入居時に記入するフェイスシートに情報を追記しながら、一人ひとりを尊重しプライバシーの保護と情報の提供に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が希望されることに応えていくように努めることで、思いを職員へ伝えやすい雰囲気を作り、信頼関係の構築を図っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	苑の都合やきまりを優先するのではなく、入居者様の意向に合わせて、臨機応変に対応しております。その日の気分に合わせて、急に外出をする事もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪を依頼し苑内で実施したり、地域の美容室利用や、その方の馴染みの床屋さんにご家族様がお連れしたりもしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、日常的に利用者と一緒にに行っている。メニューは職員が作成し、その日の献立は決まっているが、その日でも、希望があれば、メニューを変更して対応する事もあります。	メニューはあらかじめ決まっていますが、利用者の要望に応じ変更したり、「ラーメンが食べたい」という声に近所の食堂から出前を取ったりして、好みの食事を楽しむことができるように実践している。	

自己	外部	項 目	自己評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録に残し、栄養状態を把握し、一人一人の嗜好や禁止食材を情報として職員間で共有しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施は習慣化し、定着しております。うがいには、殺菌効果のあるお茶で実施しております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から状況を観察して、一人一人のペースに合わせた声掛けと、適宜介助を行っております。	生活経過表の排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせた声掛けや支援を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で個々に排便状況を把握し、食事、水分摂取量に留意しながら対応しております。便秘傾向の方は特に、排便状況を観察しながら、医師に相談し、内服薬を適宜投与しながら要観察しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前、午後の入浴を実施し、入浴予定はありますが、ご本人が入浴を拒否された場合は、別の日に変更する等して、なるべく気持ち良く入浴に応じて頂くように、配慮しております。	午前浴と午後浴をユニットを変えて実施している。変更についても予定は決まっていますが、本人の希望に合わせて可能であり、個々の意向に添って支援できる工夫がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜共に、その方に応じた配慮と、適宜居室で休んで頂く事はもちろんですが、寝たきりにならないようにし、メリハリのある生活の支援を心がけております。夕方に、足浴を行う等も、安眠に繋げる為の支援の一つです。		

自己	外部	項 目	自己評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理は、苑の看護師が主体で行い、看護師からの申し送りを職員間で共有しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や、職歴等を把握し、その方が得意とされている事等をさりげなく提供する事で、苑での生活において、個々の役割が持てるような支援を心がけております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望がある場合は、すぐに対応できない時もありますが、なるべく、その日の希望に何とか添えるように努めております。希望に合わせて、急に外出して、楽しんで頂く事もあります。	気候のよい時期には、週1回以上は外出を支援している。また、「家の畑を見たい」などの個人的な要望などに対しても丁寧に対応している。花見やドライブなど、大きなイベントには利用者全員が楽しむことができるように配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で使用できる金銭は、苑で管理しておりますが、買い物等で個人が必要な買い物は、随時、行える仕組みは整えております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様から、ご本人に電話があったり、ご本人からご家族へ連絡したいと申される場合等、気軽にやり取りができるようにしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人の馴染みの環境に合わせたものとし、共有スペースは広々と開放的に整えられた環境となっております。	共有スペースには明るくやわらかな陽の光が差し込み、高い天井からは木の暖かい温もりが感じられ、炬燵やソファなどを配置し、利用者が穏やかに過ごせるように気配りがなされている。	

自己	外部	項 目	自己評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーは、食事スペース、リビング、畳の間があり、用途に合わせて入居者がどこで過ごすかを自己決定できるようになっております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご家族様の協力を得て、馴染みのある物や家具等をご準備して頂き、その方に合わせた環境作りを心掛けております。	利用者が使い慣れたタンスやベッドなどの家具を自宅から持ち込みが可能であり、居心地のよい環境で過ごせる配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の生活習慣や、生活歴を考慮し、なるべく今までの生活を無理なく継続して頂けるように、環境設定を工夫し、さりげない介助にて入居者様を支えるように努めております。		